

【産地報告】

鹿児島県中甕島から見出されたツシマスゲ（カヤツリグサ科）

矢野興一^{1,2,*}・平本 樹²・富山千広¹・田金秀一郎³

¹岡山理科大学生物地球学部 〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町 1-1;

²岡山理科大学大学院理工学研究科 〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町 1-1;

³鹿児島大学総合研究博物館 〒890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元 1-21-30)

Okihito YANO^{1,2,*}, Itsuki HIRAMOTO², Chihiro TOMIYAMA¹ and Shuichiro TAGANE³: A new locality of *Carex tsushimensis* (Cyperaceae) from the Naka-Koshiki Island of Kagoshima Prefecture, Japan

(¹Faculty of Biosphere-Geosphere Science, Okayama University of Science, Ridai-cho 1-1, Kita-ku, Okayama-shi, Okayama 700-0005, JAPAN; ²Graduate School of Science and Engineering, Okayama University of Science, Ridai-cho 1-1, Kita-ku, Okayama-shi, Okayama 700-0005, JAPAN; ³The Kagoshima University Museum, Kagoshima University, Korimoto 1-21-30, Kagoshima-shi, Kagoshima 890-0065, JAPAN)

*Corresponding author: oki.yano@gmail.com

(2024 年 7 月 18 日 受理)

Abstract:

Carex tsushimensis (Ohwi) Ohwi (Cyperaceae) is found from Naka-Koshiki Island, Kagoshima Prefecture, southwestern Japan, which represents the third locality in the prefecture.

はじめに

ツシマスゲ *Carex tsushimensis* (Ohwi) Ohwi (カヤツリグサ科) は、林縁や林床に生育する多年生草本である。本種は、国内では長崎県、佐賀県、鹿児島県に分布し (中西 2011, 矢野ほか 2023)、国外では韓国 (全羅南道) および中国 (浙江省) に分布する (Nam et al. 2014, Zhang et al. 2020)。

鹿児島県において、これまでに薩南諸島北部の三島村黒島のみでツシマスゲ (マダラシマスゲ型) が分布することが知られていたが、著者らは 2023 年に九州本土の鹿児島市にマダラシマスゲ型でないツシマスゲが分布することを報告した (矢野ほか 2023)。さらに、著者らは鹿児島大学総合研究博物館 (KAG) の標本を精査したところ、2021 年に中甕島においてツシマスゲの標本が採取されていることを新たに見出した。

甕島列島 (上甕島、中甕島、下甕島) のスゲ属は、初島 (2004) において 19 分類群、大西ほか (2015) において 18 分類群、鈴木ほか (2022) において 31 分類群が報告されている。しかし、ツシマスゲは甕島列島ではこれまでに記録がなく、かつ鹿児島県における 3 カ所目の自生地となる。そこで、2024 年 4 月および 5 月に著者らは甕島列島にて現地調査を行い、ツシマスゲの分布と生育状況を確認したので、ここに報告する。

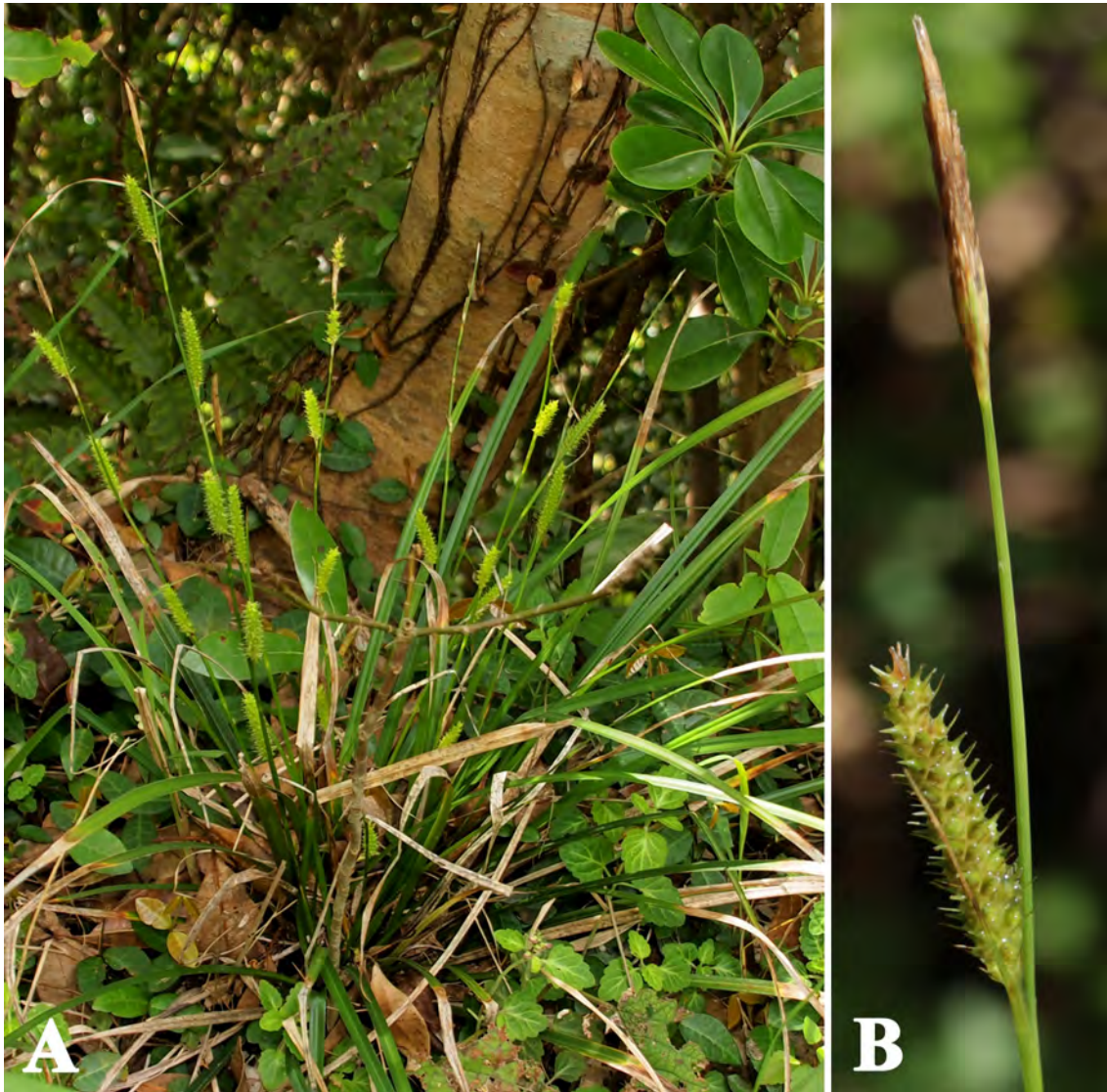


図 1. 鹿児島県中甕島のマダラシマスゲ型ツシマスゲ. A: 全草 (2024 年 4 月 14 日, 田金撮影).
B: 雄花穂と上部の雌花穂 (2024 年 4 月 22 日, 矢野撮影).

中甕島のツシマスゲ

KAG で見出した中甕島産のツシマスゲ標本は、2021 年 3 月 15 日に採集された標本 (鈴木英治 s.n., KAG095970) 1 点であり、標本のラベルでは「ツクシマスゲ?」とされていた。

2024 年 4 月 14 日と 22 日、5 月 6 日に著者らが中甕島を訪れたところ、ツシマスゲが多数生育しているを確認することができた (図 1)。生育地は、山道脇の半日陰になるようなタブノキ、ハマビワ、マテバシイ、トベラなどが優占する常緑樹林の林縁であり、ツシマスゲはツワブキ、ヨモギ、タチツボスミレ、コバノタツナミ、ツボクサ、コゴメスゲ、ハウロクイチゴなどと共に、50 株以上が生育していた。今回確認したツシマスゲは、典型的なツシマスゲと比べて雌花穂の柄が短く、苞が長い個体もあり、果胞の脈が細いことから、マダラシマスゲ型であった (図 1A & B)。

したがって、鹿児島県では、マダラシマスゲ型ツシマスゲの分布は黒島と中甕島であり、九州本土に位置する鹿児島市のみがツシマスゲそのものであることがわかった。

以上のことから、マダラシマスゲ型ツシマスゲの国内分布は、鹿児島県（三島村黒島と薩摩川内市中甕島）、長崎県（西海市松島と西彼杵郡長与町）、佐賀県（唐津市馬渡島）である。国外では、中国浙江省のツシマスゲも Zhang et al. (2020) の植物写真から、雌花穂の柄が短いことが顕著であるためにマダラシマスゲ型と思われ、マダラシマスゲ型ツシマスゲは韓国（全羅南道 Gageo Is.）および中国（浙江省）に分布している。したがって、マダラシマスゲ型ツシマスゲはツシマスゲそのものよりも東アジアに広域に分布しており、また近年に次々と新産地が見出されていることから、東シナ海の島嶼部においてさらなる生育地が見つかる可能性が高い。

証拠標本

ツシマスゲは絶滅危惧種であることから、詳細な地名は省略した。今回の報告において新しく採取・作成した証拠標本は岡山理科大学植物標本庫（OKAY）に収蔵されている。

鹿児島県. 薩摩川内市 中甕島 (O. Yano, I. Hiramoto & C. Tomiyama no. 240422309, 22 Apr. 2024, OKAY).

確認標本

鹿児島県. 中甕島 (鈴木英治 s.n, 15 Mar. 2021, KAG095970).

謝辞

本研究の一部は JSPS 科研費（22K05697, 研究代表者 矢野興一）の助成を受けて行いました。

参考文献

- 初島住彦 2004. 九州植物目録. 鹿児島大学総合研究博物館研究報告 (1): 1-343. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 中西弘樹 2011. ツシマスゲの新産地とその分布. 莎草研究 (16): 73-76.
- Nam, G. H., Kim, J. H., Kim, J. H., Kim, S. Y., Jang, J. and Chung, G. Y. 2014. First record of *Carex* sect. *Mitratae* (Cyperaceae) from Korea: *Carex chungii* Z. P. Wang, *Carex tsushimensis* (Ohwi) Ohwi and *Carex multifolia* Ohwi. Korean J. Pl. Taxon. **44**: 33-38.
- 大西亘・勝山輝男・佐々木あや子・中山博子 2015. 鹿児島県甕島列島のスゲ属植物. 莎草研究 (19): 35-39.
- 鈴木英治・丸野勝敏・田金秀一郎・寺田竜太・久保紘史郎・平城達哉・大西亘 2022. 鹿児島県の維管束植物分布図集—全県版—. 526 pp. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 矢野興一・丸野勝敏・田金秀一郎 2023. 鹿児島県本土で見出されたツシマスゲ（カヤツリグサ科）. 莎草研究 (25): 39-43.
- Zhang, X.-Y., Lu, Y.-F., Liu, J.-L., Chen, W.-J. and Jin X.-F. 2020. *Carex tsushimensis* (Ohwi) Ohwi, a newly recorded species of Cyperaceae from Zhejiang in East China, with morphological comparisons among related species. Pl. Sci. J. **38**(5): 599-603 (in Chinese with English abstract).